

車両渋滞対策における検討

	具体的対策	対策の概要	対策の効果	渋滞緩和効果	その他の効果	課題	実現性	
ハード対策	駐車場の再整備 (町有地と駐車場敷きの段差の解消)	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場を再整備することにより、町有地部分(段差部分)と駐車敷部分(北海道整備駐車場、斜里町有地)の段差を解消し、一体的な運用が行えるようにする。 ・ただし、現状駐車場敷地の規模拡大は基本的にしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7台程度の駐車スペースが増加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車スペースが増加するものの、現状の渋滞規模はそれ以上に大きく、施設整備を行うだけの費用対効果が得られない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者にとってより快適・安全な利用が可能になる他、大型車両の回転が容易になるなど駐車場管理上の利便性も向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の渋滞を駐車スペースの確保のみで解消するためには、現在の駐車台数の1.5倍程度の規模が必要。 ・段差の解消だけでも、5,000万円程度の費用がかかる。 ・財政的に厳しい状況の中で費用対効果が少ない事業をどの機関が実施できるのか。 	△	
ソフト対策	地上歩道への立入認定手続の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> ・知床五湖地上歩道への立入認定手続の方法や流れについて、必要最小限かつ簡便な方法とすることにより、手続の処理速度を上げる。加えて利用者に対し、事前の周知、協力を行うことで、立入認定手続をスムーズに行い、不要な滞留時間の増加を防ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不要な滞留時間の減少によって駐車場の回転が良くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手続がスムーズに行われることは好ましいが、地上歩道を自由に利用できる現状においても渋滞は発生していることから、手続の円滑化による渋滞緩和は困難。 ・しかし、手続によって新たに発生する渋滞の抑止効果が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に立入認定手続について事前に知っていただくことで、現場での混雑が減少し、利用者の不満を緩和できる。 ・知床五湖全体の取り組みについて理解をしてもらいやすい。 	-	○	
	混雑情報等のリアルタイム提供	<ul style="list-style-type: none"> ・知床五湖駐車場の混雑情報を、ウトロ地区等に設置した掲示板や携帯電話サイト等(詳細要検討)を通じてリアルタイムに情報提供し、混雑時間帯の回避や公共交通機関への乗り換えを誘導する。(資料4-2に素案提示) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に混雑情報を周知することで、利用時間の変更や公共交通機関への乗換利用を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な情報発信ができれば、渋滞解消又は納得した利用が増加する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞を納得しての利用(事前に待つこと)がわかっており、利用者の不満を緩和することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な情報発信を行えない場合、それほど効果が得られない。 ・情報発信のツール及び場所の十分な検討が必要。 ・駐車台数が減少した場合、環境保全経費(駐車場協力金)の減収となる可能性がある。 	○	
	過去の混雑情報からの混雑予報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の情報から割り出した、渋滞予報日や混雑時間の情報を発信していくことで、より空いている時間や日への誘導を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞予報日や混雑しやすい時間についての情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が情報を見て行動を買ってもらえることができれば、利用が平準化することで渋滞軽減に寄与できる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ情報を発信していることで、利用者が計画を立てる段階からある程度の情報が把握できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な情報発信を行えない場合、それほど効果が得られない。 ・過去の情報からの予報なので、外れる可能性がある。 ・観光船の運航によって大きく左右される。 	○	
	公共交通機関への誘導	現状運行している公共交通機関の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関自体の魅力を向上させることで、公共交通機関の利用促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の魅力が向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大多数の利用者の興味を得られるような商品を開発できれば、渋滞軽減に寄与できる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関内において、自然解説等を付け加えた場合、知床五湖等に対する理解や関心を高めることができる。 ・道道上でのヒグマとマイカー利用者との軋轢の軽減。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、公共交通機関及び行政機関等の協力が必要となる。 ・駐車台数が減少した場合、環境保全経費(駐車場協力金)の減収となる可能性がある。 	△
	知床五湖駐車料金の値上げ	<ul style="list-style-type: none"> ・現在自然公園財団が徴収している五湖の駐車料金(協力金)に管理費を上乗せして、実質的に値上げをすることで、マイカー利用者に対する公共交通機関利用の価値を相対的に上げ、もって公共交通機関の利用促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイカーで五湖に行くことのお得感を減らすことで、公共交通機関への乗換意識を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の利用者が公共交通機関で利用してもらえば、渋滞効果ができる可能性がある。 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車料金のみでマイカー利用者を公共交通機関に移行させるためには、かなりの値上げが必要であり、全体的な五湖利用者の落ち込みが発生する可能性が高い。 ・利用者からの支持が得られず、利用者が大幅に減少する可能性がある。 ・地元からの支持が得られない。 	×	
公共交通機関利用の義務づけ	混雑予想日における自動車利用適正化対策(マイカー規制)の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑が予想される日に、幌別(又は岩尾別)地区から先のマイカー規制を実施し、シャトルバス等(観光バス、タクシー、営業車両等を含む)の利用を基本とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑時期には、知床五湖を含んだマイカー規制を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に混雑時期にマイカーが入らなくなることで、渋滞の発生は解消される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シャトルバス車内において、自然解説等を付け加えることで知床五湖等に対する理解や関心を高めることができる。 ・カムイワッカまでのシャトルバスとの一体的運用を行うことにより、ウトロ地区での観光客の滞留時間の増加が期待できる。 ・道道上でのヒグマとマイカー利用者との軋轢の解消。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の理解が得られなければ、五湖全体の利用者が減少する可能性がある。 ・駐車台数減少に伴う環境保全経費(駐車場協力金)の大幅減収となる可能性がある。 	△	